

## 第4回 長野県私学振興大会

私立学校 これからも時代を担う人材を育むために

開催日時 平成29年12月21日（木）13時30分～

会 場 長野市  
長野ホテル犀北館 グランドボールルーム

主 催 公益社団法人長野県私学教育協会  
一般社団法人長野県私立幼稚園・認定こども園協会  
長野県私立中学高等学校協会  
一般社団法人長野県私立短期大学協会  
一般社団法人長野県専修学校各種学校連合会  
長野県私立高等学校PTA連合会

## 次 第

### I 式典（13：30）

- 1 開 会
- 2 開会のことば 長野県専修学校各種学校連合会 理事長 小林勝彦
- 3 国歌斉唱
- 4 主催者挨拶及び現状報告  
挨拶 長野県私学教育協会 理事長 宮川義典  
現状報告 長野県私学教育協会 副理事長 成田守夫
- 5 来賓祝辞  
長野県知事 阿部守一様  
衆議院議員 宮下一郎様  
衆議院議員 務台俊介様  
長野県議会議長 垣内基良様  
長野市長 加藤久雄様
- 6 来賓紹介
- 7 祝電披露
- 8 大会決議 長野県私立高等学校PTA連合会 会長 大熊英徳
- 9 閉会のことば 長野県私立幼稚園・認定こども園協会 理事長 窪田英一

### II 生徒等に対する理事長表彰（14：50）

### III 講演会（15：15）

#### ○講演

演題 「これからの社会で求められる人材を育てるために  
私立学校はどう取り組んでいくか」

講師 リクルート進学総研「キャリアガイダンス」編集顧問 角田浩子様

#### ○パネルディスカッション

「地方における人口減少問題」

・お礼の言葉 長野県私立短期大学協会 理事長 芝山 豊

## 主 催 者 挨拶

長野県私学教育協会理事長 宮川義典

本日、第4回長野県私学振興大会を開催いたしましたところ、多くの皆様にご参加いただき誠にありがとうございます。

また、阿部長野県知事様はじめご来賓の皆様にはご多忙のところご臨席いただき、重ねてお礼申し上げますとともに、私学教育の振興につきまして格別なるご配慮とご指導をいただいておりますことに、関係者一同心より感謝申し上げます。

今日的課題であります人口減少に加えて、AI（人工知能）をはじめとする新しい技術の進化により、今後、産業をはじめとして社会環境は大きく変わると予想されています。こうした未来の姿を見据えたとき、その時代を創造し、牽引していく人材の育成はますます重要と考えます。

私立学校は、多様化する住民のニーズに柔軟に応じた教育研究を推進しており、今後も時代を担う人材の育成に取り組んでまいります。

また、魅力ある子育て環境づくりや若者の結婚への夢や希望を叶えることができる取組、有為な人材の県内への定着等についても、私立学校が有する教育力によって可能になると思われまます。

この大会を通して、私立学校が長野県教育及び地域社会の発展に更に貢献していく意志を、広く県民の皆様を発信したいと考えております。

しかしながら、公教育の一翼を担う私立学校は、少子化による園児や児童・生徒、学生の減少や社会経済の不安定等により、大変厳しい環境に置かれ、また、教育費に対する保護者の負担は公立学校に比べて依然として重い状況にあります。

私立学校が、今後も多様で特色ある教育を推進し、長野県教育に貢献していくためには、学校の経営基盤の安定が不可欠です。

県におかれましても財政事情が厳しいなかにはありますが、私立学校の教育条件の維持向上と、私学助成の一層の拡充強化につきまして、特段のご高配とご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本大会にご協賛いただきました多くの企業様、団体様に心より感謝申し上げます。挨拶とさせていただきます。

長野県私立幼稚園・認定こども園協会理事長 窪田英一

人生の始まりである幼児期の教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を養う非常に重要なものです。

幼稚園・認定こども園は、教育基本法、学校教育法に基づく学校であり、幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とするものであって、小学校以降の生活や学びの基礎を養う学校教育の始まりとしての役割を担う極めて重要な教育機関であります。

しかるに、長野県の幼稚園就園率は24.1%と全国最下位であり、子どもたちに十分な幼児教育が行われているか疑問を呈さざるを得ません。

幼児期の発達状況等を踏まえて、小学校以降の学びとの連続性を見通したうえで、幼児教育を充実していくことが重要であり、長野県の私立幼稚園・認定こども園はこの役割をしっかりと担っていきたいと考えています。

信州創生の観点からも、長野県の豊かな自然環境、地域資源を活かした幼児教育を推進するなどして「幼児教育先進県長野」を確立することで、県内の幼稚園教諭養成校出身者が県内の幼稚園等に就職するという好循環を作り出して、幼稚園教諭の人材確保と幼児教育の質の向上などを図っていきたいと考えています。

また、少子化などの進行による家庭の教育力の減退などにより、安心して子どもを産み育てる環境が損なわれている面があります。私立幼稚園・認定こども園は、保護者や地域の子育てニーズの多様化に対応して、保育時間の延長・拡大などの子育て支援や預かり保育に積極的に取り組むことで、保護者の子育てでの不安や孤立感解消のための「子育て支援センター」としての役割を果たしており、この機能を一層充実させていきたいと考えています。

更に、小・中・高校での継続的な園児との交流体験学習によって、児童・生徒が子どもとふれ合い関心を持つことが、将来の結婚・出産・子育てにつながると期待されますので、このようなカリキュラムを積極的に受け入れていくことを検討したいと考えております。

信州の未来は、すべての子どもたちに良質な幼児教育保育を行っていくことにかかっております。

国並びに県におかれては、私立幼稚園・認定こども園の経営基盤強化のための財政支援の更なる充実と、幼児教育振興法（仮称）の早期制定にご支援をお願い申し上げます。

長野県私立中学高等学校協会会長 百瀬康雄

学校教育は、子どもたち一人ひとりの人格の完成を目指すものであり、個性や能力を伸ばして個人の可能性を開花させ、様々な分野で活躍し国や社会を支えていく若者を育成することを目的としています。このような学校教育において公教育が重要な役割を果たしていることは改めて申し上げるまでもありませんが、私立中学・高等学校における教育も、その重要性において国や公立の学校と何ら変わることはありません。

私立学校は、創始者の建学の精神に基づき、運営や教育について自主性、独自性を発揮しやすいことに特徴があり、この特徴を最大限に活かして、心身ともに大きな成長期を迎えている生徒達の個性を尊重しながら、豊かな人間性や創造性を育み、生きる力を養うためのきめ細かな教育を行っています。

こうした私立学校の特色ある教育は、私立ならではの成果をあげており、中高一貫教育や体験学習などそのまま教育制度として定着したものも多く、我が国の教育の発展に大きく寄与してまいりました。

しかしながら、現在、全国の高等学校に在学する生徒の約3割を私立高校生が占めているにすぎず、本県にいたっては私立高校生の占める割合は、県全体の2割にも及びません。今後、さらなる急激な少子化の進行により、生徒数が少ない本県の私立中学・高等学校の経営は、著しく圧迫されるのではないかと懸念しております。

私立学校はすぐれた伝統と独自の学風のもとに特色ある教育を行っていることから、私立学校の健全な発展は教育の選択肢を広げ、教育の画一化を防ぎ、多様な教育環境を県民に提供することを担保するものです。激動する時代にあってその重要性はますます高まっており、今後も国・公立の学校と私立学校とが手を携えて、地域を担う人材や国際感覚豊かな個性あふれる人材を育成していくために、厳しい環境にある本県私立中学・高等学校に対して、それぞれのお立場からお力添えをいただければ幸いと存じます。

長野県私立短期大学協会理事長 芝山 豊

短期大学は、深く専門の学芸を教育研究し、職場や日々の生活に必要な能力を育成することを目的に、昭和 25 年に創設され、地域の身近な高等教育機関として社会の発展を支えてきました。その特色は、職能教育の基礎となる教養を修め、集中的に職業に適した専門教育を提供する点にあり、本県でも、幼稚園教諭や保育士、介護福祉士、看護師などの専門的職業人、地域における多方面の産業の担い手の育成に大きな役割を果たしてまいりました。さらに、生涯学習や社会人の学びなおし等、地域活性化の拠点としても貢献しています。

しかしながら、近年は、少子化の進行に伴い 18 歳人口が減少を続け、あるいは多くの高校卒業生が県外へ流出するなど、本県の短期大学を取り巻く状況は厳しさを増してきております。

短期大学は、自県内進学率が高いことに特徴があり、とりわけ本県の私立短期大学については、進学者のうち県内出身者が 9 割を超え、全国平均を大きく上回っています。卒業後の就職につきましても、本県の私立短期大学の就職率は 99% を超え、その多くが県内へ就職しています。学生の大部分を県内から受け入れ、卒業生の大部分が県内で職を確保していることから、本県の私立短期大学が長野県の活性化に対して大きく寄与しているものと自負いたしております。また、このことは、これまで長野県内の私立短期大学が行ってきた地域密着型教育への皆さまからの信頼の賜物であろうと考えております。

今後も、この輝かしい実績を継承し、地域の信頼に応え、専門職に従事する人材や地域の中核的人材の育成、またコミュニティーの生涯学習の拠点として、地方創生や地域活性化に一層寄与してまいりたいと存じます。

本日の大会にお集まりいただいた皆様には、高校生が卒業後も長野県内に残りたいと思える魅力ある高等教育の環境づくりやグローバル化への対応と、地域社会の活性化や女性活躍推進など私立短期大学の特色を活かした教育の発展のため一層のお力添えをお願い申し上げます。

長野県専修学校各種学校連合会理事長 小林勝彦

わが国の各種学校は、明治12年の教育令以来、幅広い教育をながきにわたり行ってまいりました。専修学校は、昭和50年の学校教育法改正に伴ってこの各種学校のなかから誕生し、今日まで職業や實際生活に必要な能力の育成と教養の向上を目的に、実践的な職業教育、専門的な技術教育を行い、多岐にわたる分野で活躍する人材を育成してきました。平成19年の文部科学省白書に記されているように、その着実な発展が認められてきたところです。また、この白書では、専門学校（専修学校専門課程）は、大学等と並びわが国の高等教育の一翼を担い、多様な社会の要請と国民ニーズに応え、高等教育の多様化・個性化をはかる上でも重要な役割を果たしていると言明されています。

本県においては、専修学校の専門課程（専門学校）、高等課程及び一般課程がそれぞれ認可、設置され、より柔軟に設置可能な各種学校と共に、社会の変化に対応した多様な職業教育を中心として、各分野の専門的な知識及び技術を習得した個性あふれる多くの人材を送り出しています。そしてさらに重要なのは地域振興の観点であります。本県の高等学校から専門学校への進学者四千数百余名のうちの半数以上が県内の学校に入学し、その後、卒業生の多くが県内に就職するため、人口対策のみならず、就労人口の確保に貢献し、本県の振興に大きな役割を果たしているということが出来ます。また、平成26年度からは専門学校に文部科学省の直接認定による「職業実践専門課程」が施行され、企業等と連携して教育課程を編成するなど、実践的な職業教育の質の確保に努め、地域実業界との結びつきを強めております。

今日、産業や社会構造の変化やグローバル化、さらには人工知能をはじめとする技術革新が進展するなかで、社会の一層の発展を期するためには、個人の能力や可能性を最大限に活かし、創造性と実践性に優れた人材の育成が必要不可欠です。全ての人が自らの夢や志を考え、目的意識をもって実践的な職業教育を受けられることができるよう、本学校種の更なる充実が重要であると考えます。当連合会としましても一層の努力を重ねてまいりますので、皆様におかれましても、専修学校・各種学校を中等教育からの進学や社会人からの学び直しの選択肢として再認識をしていただき、各校の魅力ある教育活動へのご支援とさらには卒業生の良好な就職につながる企業等との連携に一層のご助力をお願い申し上げます。

## 大会決議

長野県の私立学校は、それぞれの伝統と建学の精神に立脚し、新しい時代に対応する特色ある教育を積極的に展開して、有能な人材の育成に努めてまいりました。

これからも長野県で育つ子どもたちの教育に、責任を持って尽力していく決意であります。

しかしながら、私立学校は、少子化による園児・生徒・学生の減少等に直面し、財政基盤の脆弱な私立学校の経営環境は一層厳しさを増しております。

私立学校が多様化する住民ニーズに応じた教育研究を推進し、長野県の未来を創造していく人材を育成していくためには、学校の経営基盤の安定が不可欠です。

そして、私立学校がその役割を果たし活性化することは、信州創生にも寄与するものと確信します。

私たち私立学校は、公教育の担い手であることを強く自覚するとともに、私立学校に対する県民の期待を重く受けとめ、長野県教育の充実になお一層努力することを誓い、次の事項を決議します。

### 記

- 1 私立学校の経営の健全化のため、私学に対する財政支援を充実すること
- 2 幼児教育の振興のため、幼児教育振興法（仮称）の早期制定と、人材確保のための助成制度を拡充すること
- 3 特色ある教育を行うため、また経営の安定のため、私立高等学校の生徒数を安定的に確保すること
- 4 高等学校卒業者の県外流失の抑制と経済的困窮者の就学支援のため、専修学校及び短期大学の在学学生に対する奨学金制度を新設すること
- 5 魅力ある私学教育を目指して、私立学校間の連携を強化すること

平成29年12月21日

公益社団法人長野県私学教育協会  
第4回長野県私学振興大会



## 講演会

### ○講演

演題 「これからの社会で求められる人材を育てるために  
私立学校はどう取り組んでいくか」

講師 リクルート進学総研「キャリアガイダンス」編集顧問 角田浩子様

#### 〈プロフィール〉

1981年東京大学教育学部教育心理学科卒業。同年 株式会社リクルート入社、出版部配属。高校進路指導の専門誌「キャリアガイダンス」編集、高等教育機関の学校経営専門誌「リクルートカレッジマネジメント」編集を経て、1998年4月より「キャリアガイダンス」編集長。2013年10月より同編集顧問。全国の高校で取材・講演多数。  
2015年より中央教育審議会初等中等教育分科会臨時委員

### ○パネルディスカッション

「地方における人口減少問題」

#### ・パネリスト

リクルート進学総研「キャリアガイダンス」編集顧問	角田浩子様
長野県県民文化部こども・若者担当部長	轟寛逸様
上田西高等学校校長	桜井達雄
長野社会福祉専門学校教務補佐	堀内要祐

#### ・コーディネーター

長野県私立幼稚園・認定こども園協会副理事長	和田典善
-----------------------	------